

自然遊学館 だより

2011 AUTUMN

No.61



海藻おしば作品「さくら」：今年の夏は海藻おしばの特別展を開催し、河原美也子さんにお世話になりました。上の作品は、河原さんが製作されたものです。

2011.10.31 発行 貝塚市立自然遊学館

目次

*ネイチャーレポート

- 関西の鉱物、神童子谷の鉱物 ……川村甚吉… 1
マールビーチでの生き物調査 ……覚野信行… 2

*行事レポート

- 夕暮れの海探検 ……山田浩二… 3
海藻おしばワークショップ ……山田浩二… 5
夏休み自由研究相談 2011……湯浅幸子… 5
自然生態園バッタ調べと市民の森の鳴く虫 2011
……岩崎拓… 6

- 近木川河口の生きものと遊ぼう……山田浩二… 8

*館長コーナー

- 遊学館に思う……高橋寛幸… 9

*調査速報

- 千石荘昆虫調査(2011年7-9月) ……岩崎拓… 12

*泉州生きもの情報

- コガタコオロギ ……岩崎拓… 15
カラカサクラゲ ……山田浩二… 15
エゾトンボ ……鈴木勝也… 16
せんなん里海公園人工磯での珍しい海岸動物
……山田浩二… 16

- *職業体験の感想 …… 17

- *学芸員実習生が調べた貝塚の自然 …… 19

*自然生態園コーナー

- トンボの池から羽化したトンボ ……岩崎拓… 20
*寄贈標本の紹介 …… 23
*スタッフ日誌 …… 26
*お知らせ …… 27

ネイチャーレポート

関西の鉱物. 神童子谷の鉱物

7月25日、月曜日、天気予報は雨でした。午前8時に泉南郡岬町を出発し、途中で高野山のゴマ豆腐を食べたくなったので、高野山～野迫川～大塔～天川河合のコースに変更しました。軽トラに2人、乗用車に4人が乗りヨモヤマ話に花を咲かせ、車酔いもなく河合に到着です。そこで、昼食を済ませました。

ここから行者還トンネルの方向へ30分ほど走りますと、今回の神童子です。右側には川迫川が流れています。この川を挟んだ一帯は御手洗溪谷、川迫川溪谷といわれ、11月1日前後は見事な紅葉に染まります。

本線が右折ですが、直線と同じくらいの道幅なので、時折間違える人がいます。その間違える方向が神童子谷なのです。直進20メートルもいきますと黒さび色の山肌が見えてきます。路頭のあまりにも大きな鉱物です。向かい側に鉄山という1500メートルくらいの山があります。その名前からこの地一帯が鉄の鉱物が沢山あると勝手に推察しました。

その真下の川に下りました。先日の台風による増水で川一面が石ずれし、白くなっていました。川の斜面を観察していきました。結晶した磁鉄鉱を見つけました。私の友人たちも沢山見つけていました。私の妻がクジャク石らしいものを見つけました。この地でクジャク石はおそらく珍しいのではないのでしょうか。窪みに小さな水晶群の鉱物も見つけ出しました。黒い母石にオ

レンジの輝くマンバン柘榴石も沢山発見しました。また、灰鉄柘榴石もありました。

この地一帯に産出される灰鉄柘榴石にはレインボーガーネットがあり、堀秀道氏の「楽しい鉱物図鑑②」には「宝石になる黄緑色系のガーネットとしてデマントイドが昔から有名で・・・ダイヤモンドに匹敵する光輝をもつことから1878年に命名された。・・・波長によって屈折率の違う性質を光の分散といい、ダイヤモンドの輝きはこの性質に由来する。・・・デマントイドの採集と研磨が流行している・・・」と。



現地にて



磁鉄鉱 マンバン柘榴石

採集鉱物

磁鉄鉱、クジャク石、マンバン柘榴石、
灰鉄柘榴石、水晶、鉄鉱石

(川村 甚吉)

マーブルビーチでの生き物調査

マーブルビーチは関西国際空港の対岸にあるりんくう公園内に人工的に造られた海岸です。波打ち際まで白い小石がたくさん敷き詰められていますが、その一部に藻類などが付着して緑っぽくなっている部分があります。大き目の転石（岩？）も置かれており、生物が住み着きやすいようにしているようです。



図 1. マーブルビーチ調査地

春先にその場所へ行って、よく調べてみるとカニやヤドカリが見つかりました。岬町辺りの海岸には生息している「ヒメアカイソガニ」もたくさんいるようでした。今までにこの海岸では海岸生物の調査はされていないようなので、生徒たちと調査してみることになりました。

調査は5月4日に行いました。当日は貝塚市立自然遊学館の山田先生を講師として御呼びし、海岸生物について色々と教えていただきました。

海岸は均一な大きさの小石でできているので、一辺が 30cm のコドラートを

高潮線、中潮線、低潮線ごとに3か所ずつ設置し、生物量を定量的に調べてみることにしました。採集した生き物はヤドカリを除いて70%エタノールで液浸し、持ち帰りました。（ヤドカリはその場で同定しました。液浸にすると殻の中に入り込んでしまっって種名が調べられません。）



図 2. コドラート調査

同定は7月19日に学校で行い後日、自然遊学館で山田先生にも同定していただきました。

その結果、22～23種の動物を確認することができました。一般的に、潮間帯では低潮線付近に最も生き物がたくさんいますが、今回の調査では低潮線よりも中潮線付近で生き物をたくさん採集しました。これは、内湾のため潮位差があまりなく、低潮線のコドラートを少し海水に浸かるような場所をとった影響なのかもしれません。また、春先に採集、確認した「ヒメアカイソガニ」や「イソガニ」はまったく採集されていませんでした。ヤドカリは「ホンヤドカリ」が多く、夏季には姿を消すという「ヨモギホンヤドカリ」もまだ少し残って

行事レポート

夕暮れの海探検

場所：近木川河口・二色の浜

日時：2011年7月17日(日) 15:00~19:00

参加者 57人 (うちスタッフ 11人)

います。「ヒライソガニ」と「ホンヤドカリ」は潮間帯内での分布があまり重ならないようで、前者が中潮線から高潮線に分布し、後者は低潮線から中潮線にかけて生息します。冬季にヨモギホンヤドカリがたくさん出現してきた場合、潮間帯のどのあたりで多く採集されるのか、少し興味のあるところです。

最後に今回、予想以上に多くの生き物を採集することができました。調査した場所の周辺は、海岸線の埋め立てがなされる前は、そのほとんどが砂浜でしたが、もし磯浜があれば、これ位の生き物が生息できる環境があるのだと思いました。

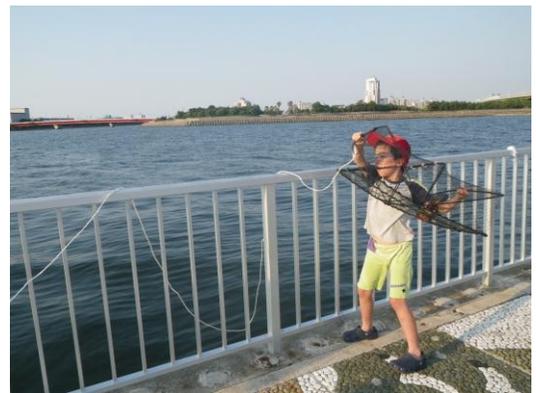
表1. りんくうマールビーチでの生物採集の結果

グループ	種	採集地点			低潮線付近			中潮線付近			高潮線付近		
		コードラート No.	No. 1	No. 2	No. 3	No. 1	No. 2	No. 3	No. 1	No. 2	No. 3		
貝類	多板類	ヤスリヒザラガイ	19	3		17	7	11	8	2	1		
		ヒメケハダヒザラガイ	1										
		ウスヒザラガイ							1				
	腹足類	スガイ	2		1					2		1	
		イシダタミ	5	2		5	2			1			
		コシダカガンガラ	5	3		1	1	2					
		ムギガイ	2	3		3							
		チグサガイ			1	2	1						
		イボニシ				2	2						
	二枚貝類	レイソガイ					1						
		ムラサキガイ				2	2						
		ミミガイ	2										
		オニアサリ	1										
		アサリ						1		1			
		ウチムラサキ								2			
甲殻類	ヒライソガニ				28	10	4	24	4	1			
	イソカナダマン				1								
	ホンヤドカリ	6	22		2	20	3						
	ヨモギホンヤドカリ				1	3	1						
	フトメリタヨコエビ				2	1				1			
棘皮動物	ナガトゲクモヒトデ					1							
環形動物	ゴカイsp				1			1					

(岸和田市立光陽中学校科学部

覚野 信行)

例年、日暮れから夜間にかけて行われていた「大潮の夜の海探検」ですが、今回は少し時間帯を早め、暗くなる 19 時には終了する「夕暮れの海探検」として行いました。行事当日に先立ち、参加者の中から希望者を募り、前日の夕方にカゴ網の仕掛けを行いました。餌となる魚のアラを入れたカニかごを近木川の突堤沿いに 10 個沈めてもらいました。



カゴ網を仕掛ける参加者

当日の 15 時、参加者は本館前を出発し、近木川河口左岸に集合しました。始めに館長挨拶、スタッフ紹介や行事の流れを説明した後、仕掛けたカニかごの引き上げです。参加者は 2 組に分かれ、突堤の両端からカニかごを順に引き上げていき、中に収穫物が入っているかわくわくする思いで開けてみました。結果はイシガニや、クサフグ、

ウミタナゴなどが入っていましたが、例年に比べると不漁でした。各カゴ網に掛かった生物を下図に記します。(岸から沖に向かって番号を付けています。)

カニカゴ

【二色浜側】	【近木川河口側】
⑤ なし	⑤ ウミタナゴ 1、イトマキヒトデ 1、ワレカラ類 3
④ イシガニ 2 モクズガニ(D) 1	④ クサフグ 4、イシガニ 1、ワレカラ類 1、アカニシ 1
③ なし	③ イシガニ(D) 1、イトマキヒトデ 2
② ワレカラ類 1	② なし
① なし	① ワレカラ類 1

突堤

(D:死んでいた個体)

その後 1 時間ほど、各自用意したタモ網で自由に海辺での採集を行いました。突堤近くで海面をフラフラと泳いでいたハナオコゼが見つかったり、ヒメハゼ、マゴチなどの魚や、ケフサイソガニ、タカノケフサイソガニといったカニなどが採集されていました。

近木川河口での自由採集

魚類	甲殻類
ハナオコゼ	クマエビ
マゴチ	テナガエビ
ヒメハゼ	ユビナガスジエビ
ミズハゼ	ユビナガホンヤドカリ
イボニシ	ヒライソガニ
タマキビ	イソガニ
アラレタマキビ	ヤマトオサガニ(抱卵)
マルウスラタマキビ	ケフサイソガニ
イシマキガイ	タカノケフサイソガニ
マガキ	イシガニ
アサリ(D)	

17 時半からはミニ地曳網です。スタッフ 3 人で幅 15m の網を 50m 程沖出した後、参加者全員がふた手に分かれ、力を合わせてゆっくりとロープを引っ張りました。1

回目の網入れではヒイラギ 1 匹のみ、リベンジを期した 2 回目は 8 種 23 匹の魚が、そして 3 回目はスズキとボラ 1 匹ずつが掛かりました。結局、捕れた魚は合計 9 種 26 匹で、例年に比べサッパが多く捕れたのが特徴でした。捕れたものについては、講師の鍋島靖信先生（大阪府水産技術センター）から種ごとに解説を頂き、参加者は聞き入っていました。

最後にサポートスタッフとしてお手伝い頂きました河添純子さん、鈴子佐幸さんにお礼申し上げます。

地曳網3回分（平成23年7月17日）

魚類	サッパ	スズキ	ヒメハゼ	キチヌ	ボラ	ヒイラギ	シロギス	マハゼ	チチブ	甲殻類	ケフサイソガニ	テナガエビ
	8	5	4	3	2	1	1	1	1	8	4	



地曳網でとれた魚を説明する鍋島講師

(山田 浩二)

海藻おしばワークショップ

日時：2011年8月6日（土）10:00～15:00

場所：自然遊学館多目的室

参加者：29人（うちスタッフ7人）

夏期特別展「海藻おしば」（協力：海藻おしば協会、海藻おしばくらぶ）の会期中に、海藻おしば作りを体験するワークショップを行いました。

参加者は展示されている講師の河原美也子さんの作品や、受講生の作品をしっかりと見てから、思い思いのテーマを決めて、とりかかっているようでした。「海藻おしばなんて初めて」という方ばかりでしたが、講師の河原さんの指導をはじめ、海藻おしばくらぶの傳さん、上田さん、黒田さん、和田さんの厚いサポートがあり、皆さん満足のいく作品が出来上がったようでした。

作品は乾燥させ、ラミネート加工をしてから、後日、参加者のもとへ届けられました。



海藻おしば体験

（山田 浩二）

夏休み自由研究相談 2011

期間：2011年7月22日～8月26日

自然遊学館では、夏休みの期間中、自由研究相談の受け付けを行いました。今年は、以下の22件の自由研究相談があり、例年より多めでした。お役に立てたでしょうか。

- ・箱作海岸の動物調べ
高校1年生男子（枚方市）
- ・洞川の魚調べ
小学2年生女子（貝塚市）
- ・キンセンガニのいる場所、取り方
小学5年生男子（さいたま市）
- ・カブトムシとクワガタムシの飼育方法
小学生男子
- ・串本の貝
小学5年生男子（熊取町）
- ・クワガタ標本
小学4年生男子（貝塚市）
- ・虫の名前
小学2年生女子（東京都）
- ・ウミホタル
小学5年生男子（堺市）
- ・ナガオカモノアラガイ
高校2年生女子（貝塚市）
- ・忠岡漁港近くで釣れる魚
小学4年生男子（岸和田市）
- ・和泉葛城山と近木川の動物
中学1年生男子（岸和田市）
- ・家の田んぼの生物
小学4年生男子（泉南市）
- ・奈良天川村の植物
小学6年生女子（貝塚市）

- ・ 白浜の海の魚
小学2年生男子（堺市）
- ・ 植物採集
中学1年生女子（貝塚市）
- ・ ハマボウフウの根の研究
小学4年生女子（貝塚市）
- ・ アリジゴク
小学5年生男子（阪南市）
- ・ 串本とすさみの貝の標本
小学3年生男子（貝塚市）
- ・ 二色の浜の貝調べ
小学4年生男子（貝塚市）
- ・ 甲虫の同定
小学5年生男子（貝塚市）
- ・ 二色運河のカニカゴに入った生き物
小学4年生男子（貝塚市）
- ・ プランクトン採集
小学5年生男子（熊取町）



画：大坂 駿さん（小学5年生、さいたま市）

自然生態園バッタ調べと 市民の森の鳴く虫 2011

場所：貝塚市二色市民の森

日時：2011年9月10日 16:00～20:30

調査者：バッタ調べ14人、鳴く虫14人

自然遊学館わくわくクラブが中心になって行っている生態園作業日に合わせて、バッタの原っぱでバッタ調べ、市民の森で鳴く虫の声を聞く会を開きました。講師は、今年も日本直翅類学会の森康貴さんをお願いしました。

バッタ調べは午後4時からで、バッタの原っぱで参加者が20分間採集を行い(図1)、1個体ずつを透明カップに入れて仕分けしました。

森先生の指導の下、種類ごとに分けて個体数を数え(表1)、各種の説明やオスとメスの見分け方などを聞きました。最後にすべての個体をバッタの原っぱに逃がして行事を終えました。



図1. バッタの原っぱで採集

(湯浅 幸子)

表1. 自然生態園/バッタの原っぱのバッタ調べ

2011年9月10日 16:20~16:40 14名
 同定: 森 康貴

科	種	成虫	幼虫
キリギリス科	クビキリギス		9
	ホシササキリ	12	6
ツユムシ科	ツユムシ		4
コオロギ科	エンマコオロギ	6	
	ハラオカメコオロギ	2	2
	ツヅレサセコオロギ	1	
ヒバリモドキ科	マダラスズ		1
	シバズ	1	2
オンブバッタ科	オンブバッタ	4	
バッタ科	ショウリヨウバッタ	3	
	マダラバッタ	10	7

ほか、チョウセンカマキリを観察。

夕食後、午後7時から鳴く虫の行事です。森先生に標本や特製の翅模型を使って主な種類の鳴き声や鳴き方の説明を受けてから、市民の森に行きました。

樹上ではアオマツムシがさかんに鳴き、他の鳴き声をかき消してしまうほどです。ササキリ類の鳴き声はかすかで、聞き取りにくかったかもしれません。

結局、10種類の鳴き声を聞くことができました(表2)。その表に示したように、姿を見ることができた種は残念ながらありませんでした。アオマツムシも樹上の高い所で鳴いていて、最後まで姿を見ることができませんでした。

表3に個体数のデータを取り始めた2007年からの記録を示しました。種数が最多だった2008年はバッタ科の種数が多かったのです。個体数は今年の70が最多でした。

表2. 市民の森の鳴く虫

2011年9月10日 19:20~20:20 14名
 同定: 森 康貴

科	種	姿	鳴き声
キリギリス科	ホシササキリ		○
	ウスイロササキリ		○
コオロギ科	エンマコオロギ		○
	ハラオカメコオロギ		○
	ミツカドコオロギ		○
	ツヅレサセコオロギ		○
ヒバリモドキ科	シバズ		○
マツムシ科	アオマツムシ		○
	ヒロバネカンタン		○
カナタタキ科	カナタタキ		○

ほか、ツユムシ幼虫、ショウリヨウバッタ、クロゴキブリ、ハラビロカマキリを観察。

表3. バッタ調べと鳴く虫行事のまとめ

バッタ調べ			
年	種数	個体数	優占種
2007	13	58	クビキリギス
2008	15	66	ハラオカメコオロギ
2009	8	61	マダラバッタ
2010	8	68	エンマコオロギ
2011	11	70	ホシササキリ

鳴く虫	
年	種数
2007	7
2008	9
2009	9
2010	11
2011	10

* 2009年は雨中で短時間の調査

環境がそれほど変わっていないのに優占種(個体数が最も多い種)が年ごとに入れ替わるのが面白いと思います。

(岩崎 拓)

近木川河口の生きものと遊ぼう

日時：2011年9月24日（土）10:00～15:00

場所：近木川河口

参加者：51人（うちスタッフ10人）

台風15号が過ぎ去ってから3日目でしたので、まだ少し川の水量が増していましたが、安全面では問題がないとの判断で行いました。講師には今年も貝にお詳しい児嶋格さんにお越し頂き、午前中は潮のひいた前浜の河口域で生きものさがしを行いました。

主な観察場所は河口の左岸でしたが、希望者には渡し舟（ゴムボート）を行い、右岸側にも行ってもらいました。参加者はタモ網とスコップなどを使って、河口の生きものを採集した結果、計6門38種の動物が確認されました。1番多くの種を記録したのは貝類で、次いで甲殻類でした。昨年の本行事の際に貝塚市沿岸で初記録となったヒモイカリナマコに内部寄生する巻貝、ヒモイカリナマコツマミガイは、今回も4個体が見つかりました。また、オサガニも3年ぶりに数個体が確認されました。



近木川河口左岸で採集

近木川河口（前浜）の生きもの観察会 20110924

グループ	和名
刺胞動物門 花虫綱	イソギンチャク目 タテジマイソギンチャク
軟体動物門 多板綱	クサズリガイ科 ヒザラガイ
腹足綱	ニシキウスガイ科 イシダタミガイ
	アマオブネガイ科 イシマキガイ
	タマキビ科 タマキビ
	アラレタマキビ
	マルウスラタマキビ
	コビトウラウスガイ
	ハナゴウナ科 ヒモイカリナマコツマミガイ
	アツキガイ科 イボニシ
	フトコロガイ科 ムギガイ
	カラマツガイ科 カラマツガイ
二枚貝綱	フネガイ科 カリガネガイ
	イガイ科 コウロエンカワヒバリガイ
	クログチ
	ホトギスガイ
	イタボガキ科 マガキ
	ケガキ
	チドリマスオ科 クチバガイ
	マルスタレガイ科 アサリ
	カガミガイ
	イワホリガイ科 セミアサリ
環形動物門 多毛綱	ゴカイ科 ウロコムシ類
節足動物門 軟甲綱	フナムシ科 フナムシ
	スジエビ科 フナガエビ
	ホンヤドカリ科 ユビナガホンヤドカリ
	ガザミ科 イシガニ
	タイワンガザミ
	モクスガニ科 イシガニ
	ケフサイシガニ
	ヒライシガニ
	スナガニ科 スナガニ属
	オサガニ科 オサガニ
	ヤマトオサガニ
棘皮動物門 オマコ綱	イカリナマコ科 ヒモイカリナマコ
脊索動物門 硬骨魚綱	ウナギ科 ウナギ
	スズキ科 スズキ
	ハゼ科 ミズハゼ属
	ヒメハゼ

午後からは近木川下流のヨシ原へ移動し、カニ釣りです。この行事のために数日前にヨシを間引いたり、護岸沿いのゴミ拾いをスタッフと学芸員実習生で行いましたが、大阪府岸和田土木事務所の方々にもご尽力いただきました。

参加者へおもりのついたタコ糸と餌となるタクアンを配った後、始めの合図とともに40分間時間を計り、カニ釣りを行いました。その後、計測場へ釣れたカニを持ってきて頂き、スタッフでカニの種類、雌雄、甲幅の記録を行いました。参加者全体

館長コーナー

遊学館に思う

の釣果は、クロベンケイガニ 9 匹、ハマガニ 41 匹、アシハラガニ 1 匹の計 51 匹でした。これは、今年の全数 (121 匹) と比べて半減以下で、また 2005 年以降の記録の中でも最小の釣果でした。先月の 8 月 19 日に泉佐野市の団体がここでカニ釣りしたときは、もっとたくさん釣れていましたので (特にアシハラガニが多かった印象)、今回は大雨による増水がまだ影響していたのかもしれませんが、各種の大物については、以下の表に甲幅と雌雄、釣り上げた人を記しました。

クロベンケイガニ			平均	30.9mm
1	32.2	♂	藤原 佑樹	
2	32.1	♂	山田 琉太郎	
ハマガニ			平均	41.3mm
1	50.4	♂	山田 琉太郎	
2	50.3	♂	久妻 さゆり	
アシハラガニ				
1	20.8	♂	荒木 匠	



北側から見た自然遊学館の全景



近木川のヨシ原でカニ釣り

(山田 浩二)

自然遊学館という名前から想像できるように、遊学館の周りには自然がたくさんあります。トンボの池やバッタの原っぱ、ドングリの森のある自然生態園は、できるだけ人の手が入らないように、最低限の維持・管理を行いながら、生き物を育てています。

すぐ近くには二色浜や近木川の河口もあり、海や川の生きものがたくさん見られます。そんな遊学館から眺める歩道のわきには、月ごとにいろいろな野草が生えてきます。



綿帽子をつけたセイヨウタンポポ（左）と歩道脇に咲き乱れるヒルザキツキミソウ（右）

◆ 遊学館の春から秋の出来事 ◆

さて、遊学館には季節が変わるごとに自然の営みの一端が再現されます。では、月ごとに代表的な出来事を振り返ってみましょう。

4月

ニホンヒキガエル（ヒキガエル科ヒキガエル属）が脱皮。カエルの脱皮は初めて見ました。カエルも衣替え？さらに、脱皮した皮をもぐもぐと食べてしまいました。これには驚きでした。9月までには、アオダイショウやイセエビ、ゴキブリにザリガニとたくさんの脱皮がありました。この脱皮の記事は、6月の広報かいつか『生きものだいすき』で紹介されました。



ニホンヒキガエルの脱皮

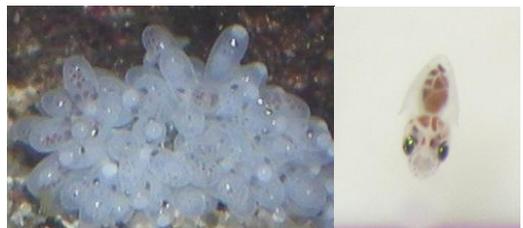


7月には草刈りが
左上・7月
右上・8月
左下・9月

5月

4月末から5月にかけてマダコが産卵。5月2日には大量に幼生が孵化しました。ものすごい数と珍しさで遊学館に来館する人はもとより職員も驚きで目を丸くしました。おかげで遊学館は大繁盛。職員も大いに活気づき話題はいつもタコでした。しばらくは餌の心配をしてみたり、いろいろな専門機関に飼育についてといあわせたりして大忙しでした。

しかし、10日足らずで母ダコが亡くなり、後を追うように子ダコたちも……。この記事は11月の広報かいつか『生きものだいすき』で紹介されました。



マダコの卵とふかした幼生

このころ二色産業団地でのキジ（野鳥？）の目撃情報が入りました。現場に近

い大阪南部流域下水道事務所湾岸中部管理センターの方に話を聞くと、「キジの目撃はかなり前からあり、親子で歩いている様子も見かける。かなり前から住み着いているらしい。さらには、桜も自然に生え、驚いている」との情報でした。二色町の産業団地は自然再生(?)が進み始めているのではないかと思うほどでした。

5月～7月

自然遊学館だより第60号にカワモズクの記事が掲載されましたが、このスタートは5月21日(土)に遊学館に持ち込まれた時から始まりました。

少し振り返ってみましょう。岸和田在住の奥氏は葛城山を散策中珍しい藻を発見しました。「これはカワモズクではないか?」と思い、自然遊学館に持ってこられました。持ち込まれたものが何なのか、すぐには答えが出ず、預かり調べることになりました。顕微鏡などで見ると数珠状につながるのが分かりました。「カワモズクかもしれない」、「もし、カワモズクだということになると、ひょっとして大阪初?」一同緊張で胸が高鳴りました。

早速、専門家に見てもらい、確認をしようとしたのですが、なかなか藻類の専門家が見つからず、同定してもらえませんでした。いたずらに時間が過ぎ、7月も下旬になるころ、国立環境研究所に相談し、やっと専門家に同定をお願いすることができたのです。やがて、同定をお願いした藻類研究の第一人者の方から「カワモズクであることに間違いない、しかし、そこから先の系統解析が済まない」と最終同定には至らな

い」との返事とともに、「この発見結果は大阪府の新しいレッドデータブックの見直しに一石を投ずることになるかも?」との嬉しい言葉があり、ここで一段落という感じでした。なお、広報かいつか8月号にカワモズク発見のニュースが掲載されました。



発見されたカワモズク

少し時間をもどして。

6月

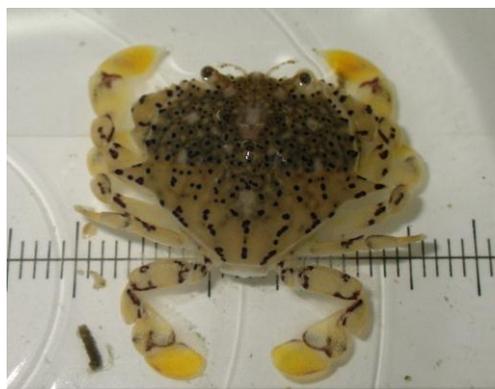
広報かいつかに『生きものだいすき』を連載開始。最初のニュースは4月のジロボウエンゴサクとニホンヒキガエルの脱皮でした。

8月

関西テレビ8CHのニュース番組、ANCHORに遊学館が登場しました。きっかけは遊学館の年間行事、夏休みの自由研究相談についての取材でした。そこからキンセンガニを自由研究する孫とそれを応援するおじいちゃんにスポットが当てられ、番組が誕生したわけです。

この時の取材に訪れたディレクターは、

遊学館の面白さに非常に興味を持たれました。テレビでは職員と遊学館が番組初めに登場しました。



キンセンガニ

9月

満月の頃、夏の暑さが一段落すると、秋の虫の声が大きくなり、バッタの調査や夜の鳴く虫観察などたくさんの生き物と触れ合いました。最後に美しい声で鳴く秋の虫、前出の二色産業団地（人工島）でみられるマツムシを紹介します。



マツムシ（バッタ目マツムシ科）

チンチロリンと鳴くマツムシは、主に丘陵地に生息していますが、人工島（二色南

町）にも多く生息しています。今年の鳴き初めは8月上旬でした。秋に鳴く虫の代表的な存在であるマツムシは、夏から鳴く虫なのです。この記事はかいつか広報『生きものだいすき』10月号で紹介されました。

他にも、今回掲載できないほどたくさんの出来事がありました。それはまた、別の形で皆様にお知らせできると思います。

これから遊学館の周りも秋の本番を迎えやがて冬支度に入ります。遊学館はこれからも地域の自然とともに活動を続けます。次回は秋から春の出来事をお知らせします。どんなことを報告することができるでしょうか？お楽しみに。

（高橋 寛幸）

調査速報

千石荘昆虫調査（2011年7-9月）

2011年7月14日

正午の日陰の気温が 36.0℃と暑い季節になりました。ニイニゼミとアブラゼミの鳴き声が聞こえます。ふつうはニイニゼミ→クマゼミ→アブラゼミと鳴き出すのですが、クマゼミの鳴き声はしません。先月は幼虫だったキリギリスとヤブキリが成虫になり鳴き始めています。水田の上にはウスバキトンボが群れ出し、ツバメが飛びまわっています。木々草々の緑と空の青のコントラストがすばらしい里地の景観です。

チョウ類 11 種、バッタ目 9 種、アリ類 9 種など種数は先月とほとんど変わりませ

んが、トンボ目は8種とかなり増えました（それぞれのグループを狙って調査をすればもっと種数が出ると思います）。クヌギの木からは樹液が出ていて、おなじみのカナブンやヨツボシケシキスイが来ていました。それらに混じってハチモドキハナアブがいました（図1）。姿もそうですが飛び方もハチの仲間のまねをしているように見えます。



図1. ハチモドキハナアブ

その他、自然遊学館に標本のないものとしてミカンミドリアブラムシを採集しました（図2）。ミカンの害虫だそうですが、多食性の種で、いたのはトベラ上でした。アブラムシ類を採集した場合は、顕微鏡写真を撮影した後、一部を乾燥標本にしてインスペース（標本管理ソフト）に登録し、その他はアルコール液浸標本にして保管しています。



図2. ミカンミドリアブラムシ

2011年8月9日

日陰の気温が35℃で、日向の地面の温度は50℃を超えています。そんな暑い地面でもムネボソアリが温度計のそばを通り過ぎていきます。さすがアリは働きものの代名詞だけのことだけはあるなと感心しました。

ウスグモズはこれまで二色の市民の森公園でしか採れていませんでしたが、今回、千石荘で確認できました。コハンミョウは図鑑では平地の普通種と書いてあるのに、これまで千石荘で1992年に1個体が採集されていただけでした。ミカドジガバチ（図3）も普通種なのに、これまで遊学館に標本はありませんでした。大きなアゴはチョウ目の幼虫を運び、巣穴に入れるために使われます。



図3. ミカドジガバチ

自然遊学館が所蔵する貝塚産昆虫のコレクションも充実しているとは言いがたいのです。でも戦力は僅か、気長にやっていくしかありません。

2011年9月22日

涼しくなり、セミはツクツクボウシの鳴き声がするだけになりました。ヤブガラシの花にハチやハエが集まっています。その他、ヤブマメ、ヘクソカズラ、アレチヌスビトハギ、タンキリマメ、ツユクサなどの花も目立ちますが、それほど虫は来ていません。チョウの種数は先月からやや減り9種を確認しました。大幅に種数が増えたのはバッタ目で19種を数えました。そのうち17種が鳴く虫です。クサヒバリ、マツムシ、カンタン、ツヅレサセコオロギ、ササキリなどの鳴き声が聞こえました。



図4. マルバネフトオ

クズの葉上にいたのはツバメガ科のマルバネフトオです(図4)。前翅を巻いて止まっています。何かのつもりになっているのでしょうか。自然遊学館に標本がないのに、写真を撮っている間に逃げられてしまいました。



図5. ヤブクロシマバエ

交尾していたのはヤブクロシマバエです(図5)。左がメスで右がオスです。これも自然遊学館に標本がなかったので、撮影後に採集しました。小さなハエたちの恋路の邪魔をしてしまいました。

(岩崎 拓)

泉州生きもの情報

コガタコオロギ

2003年に創館10周年を記念して作成した動植物リストにはコガタコオロギが載っていません。それは自分の勉強不足が原因で、鳴き声を知らなかったからです。その後、標本整理や行事でお世話になっている市川顕彦さんや河合正人さんに鳴き声を教わり、貝塚市内の蕎原、馬場、および自然遊学館周辺（二色の浜～市民の森～人工島）で「ジー ジー ジー」と間隔を空けた、その特徴的な声を確認しました。

それで7月26日の晩、館の前でその鳴き声を聞き、ようやく貝塚産のコガタコオロギの姿を見ることができました。



コガタコオロギ成虫（体長15mm）

みなさんご存知のエンマコオロギの半分程度の体長をしています。コガタコオロギは幼虫で越冬し、初夏が成虫の時期です。本号は鳴く虫のシーズンである秋に発行されますが、その頃にはコガタコオロギは卵か若い幼虫で目立たない存在になっています。

（岩崎 拓）

カラカサクラゲ

2011年8月5日、二色海浜緑地にて学芸員実習生の原 友里さんといっしょにプランクトンネットをひいていたところ、ネットを詰ませるほどのカラカサクラゲが大量に入ってきました。本種はヒドロ虫綱剛クラゲ目に属し、傘の直径は約2cmのかわいらしいクラゲです。傘の中央部から長く伸びた口柄と呼ばれる部分の先端は、口と胃です。和名のとおり、唐傘のような体つきをしています。本州中部以南の暖かな海域では普通に見られるそうですが、当館ではまだ採集例がなかったもので、標本に残しました。



カラカサクラゲ



二色海浜緑地でプランクトンネットを曳く

（山田 浩二）

エゾトンボ

2011年8月12日

和泉葛城山山頂

夕暮れ時に広場で飛んでいました。採集してみると、エゾトンボ科のトンボだと分かったのですが、種名までははっきりとは分かりませんでした。自然遊学館に持っていくとエゾトンボという種であることが分かりました。エゾトンボは、体に光沢があり黄色い斑紋があるのが特徴です。



エゾトンボ (トンボ目エゾトンボ科)

エゾトンボはこれまで、黒田祥子さんが貝塚市内で撮影した画像でしか記録がありませんでしたが（井上・松田、2003）、今回、標本を得ることができ、館内の「貝塚市のトンボコーナー」に展示しました。

その他に和泉葛城山でエゾトンボ科のコヤマトンボ、タカネトンボ2種を採集することができました。

8月14日、コヤマトンボ 1♂

8月23日、タカネトンボ 1♂

引用文献

井上清・松田勲（2003）貝塚市のトンボ。「貝塚の

自然—貝塚市立自然遊学館創館10周年記念号」、pp. 1-27.

（鈴子 勝也）

せんなん里海公園人工磯での 珍しい海岸動物

この夏、せんなん里海公園人工磯（阪南市）で観察しました海岸動物の中で、大阪湾のこの辺りではめずらしいのではと思われる種について、ここで記録にとどめたいと思います。

ヘリトリマンジュウガニ

2011年8月11日、1個体採集。♀、甲幅4.5cmのまだ小さな個体でしたが、抱卵していました。貝塚市の二色の浜で、1998年に採集された標本を所蔵していますが、その後は当館に記録がありません。現在、展示飼育中。

アオリイカ

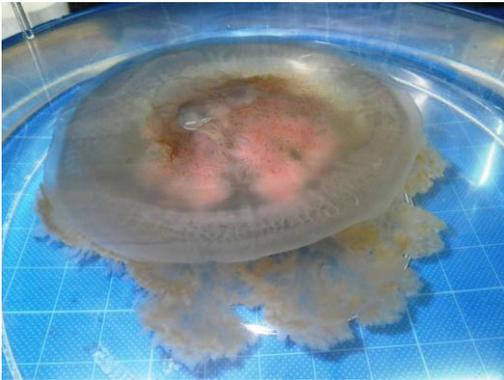
2011年8月30日、3個体採集。5匹ほどの群れが、干潮時に人工タイドプールに取り残されていました。個体の全長は15～20cmでした。



アオリイカ

エビクラゲ

2011年9月10日、3個体採集。傘の直径が20cm以上ある大型のクラゲ。傘の中央は、ドーム状に盛り上がったデコボコの突起があり、迫力がありました。口腕の間に小さなエビがすんでいることが多いそうで、その名の由来ともなっているのですが、採集したものの中には見当たりませんでした。当館所蔵標本となりました。



エビクラゲ

ウミナメクジ近似種

2011年9月10日、1個体採集。アメフラシの仲間で、薄い葉片状の貝殻を持っています。全長約3cm。当館所蔵標本となりました。



ウミナメクジ近似種

なお、今回報告した生きものたちは、NPO 法人シニア自然大学校講座部の観察会において、受講生やスタッフの皆さんが採集したものです。

(山田 浩二)

職業体験の感想

9月8日、9日の2日間、当館にて職業体験を行った貝塚市立第四中学校2年生の女子4人から感想文を頂きましたので、ここに紹介いたします。

「2日間職業体験をさせていただいてありがとうございました。

エサやりや植物採集など色々なことを知れたと思います。自然遊学館で仕事と決まったとき、仕事とかできないんじゃないかなと思ってました。でも自然遊学館の人が親切に教えてくれて、とてもわかりやすかったです。

昨日のことでは植物採集が楽しかったです。歩くのが疲れたりもしたけど、色々な植物が見れて、今まで同じだと思っていた植物が実は違っていたり、雑草としか見てなかったものが昨日の帰り道ではこの草あったなあとかこの草なかった、なんていう草なんやろとか思って興味を持てたのが特に嬉しかったです。

今日は水そう掃除がすごく印象深いです。朝から昼過ぎまでずっと泥だらけになってがんばったなあって気がします。泥水みたいだったのでメダカを見付けること

もむずかしかったし、数匹死んでしまったのが悲しかったけど、良い体験になったと思います。魚放流を間近で見たのも初めてだったのですごく良い体験をしたなと思いました。

2日間自然遊学館の人達には迷惑かけばなされたと思いますが、2日間ありがとうございました。」

M. I.

「2日間自然遊学館で魚のエサやりとか植物の採集とか、いろいろ試みて、ちょっと疲れたりもしたけどおもしろかったです。

今まで知らなかった植物の名前とか動物の事とかを知れて良かったと思いました。ラミネートとか、初めてやったから最初ちょっと難しかったです。植物を採集しに行ったとき似てる植物とかでも違いがいろいろあって楽しかったです。水そうのそうじをするとき最初めっちゃ汚れとかいっぱいあってびっくりしたし、やってるうちに手が痛くなってしんどかったです。自然遊学館とか家から遠いし行くこととか全然なかったから、体験してみているいろいろやって疲れたこととかあったけど、おもしろかったからやって良かったと思いました。

2日間、いろいろやらせてくれたり教えてくれてありがとうございました。」

A. M.

「2日間ほんとうにありがとうございました。1日目のエサやりとか植物採集はともたのしかったです。でもちょっとしん

どいなどか思うこともあってラミネートは、紙をフィルムにはさんだりするのがすごく時間かかって、しかもその作業めっちゃあってえ～とか思っていました。でもできあがったときとかめっちゃたっせいかなあって仕事ってこんなかんじなんやなと思いました。エサやりはエサを生き物にやったしゅんかん生き物がむらがってきたのですこしびっくりしました。植物採集は自分たちでなんでもいいから目の前にはえていた草をとりあえずとっていったかんじだったのでそれはあかんかったなと自分の中ではんせいしています。でもいろいろな植物の名前が知れたのでよかったですなと思いました。けど植物を洗うのはとてもたいへんでしんどかったです。2日目のすいそうそうじは思ったよりすいそうがでかくてこんなんおわんのかなと思いました。そしてじっさいやってみるととても大変でつかれてきたので、ばててサボってほかの子にまかせてしまっていたけど、と中からがんばらなあかんとか思ってがんばっていました。それでメダカをとったり水をぬいたりしていたけどメダカはとってもとってもでてくるし、水はぬいてもぬいてもぬけないので、こんなんやってほんまにきれいになんのかなと思っていました。水そうそうじがあんなに大変なんだなということと、遊学館の人たちはとてもやさしく教えてくれたりして、とてもうれしかったです。最後のほうに魚をほうりゅうしにいったとき、館長がとてもやさしくてしゃべりやすかったです。2日間というみじかい間でしたが、いそがしい中私たちにさまざまなことを教えてくれて本当に

ありがとうございました。この体験をいかしてこれからもさまざまなことにチャレンジしていきたいと思いました。」

H. H.

「2日間いろんなことをさせていただいてありがとうございました。

すごくいい体験になりました。見たことのなかった魚とかを見れて、よかったです。

魚や虫のせわをするのは大変なことやなって思いました。楽しいこともいっぱいあって、難しいこととかいろいろあったけど、しんせつにおしえてもらってわかりやすかったです。生き物のせわをすることは、いろんなことをして、やっても楽しかったし、生き物を見て回っても楽しかったです。

知らなかったことが、いろいろわかって、いい勉強になりました。自然遊学館には、前きたことがあってどんな仕事するとか、あんま考えていなかったけど、2日間で、いろんなことがわかりました。生き物が住みやすいようにするのはすごく難しいんやなって思いました。

いつみても、生き物はあきへんし、生きものがたくさんおって、すごくわくわくしておもしろかったです。初めてやったこともあったし、きちょうな体験をさせていただいたと思いました。

まだ見たことのない生きものとかも見てみたいなって思います。本当に2日間おせわになりました。ありがとうございました。」

Y. O.

学芸員実習生の調べた貝塚の自然

博物館学芸員資格の取得に向けて、今年度、当館で10日間の実習を行った学生らがまとめた自主課題について紹介します。ここではタイトルと概略のみを掲載しますが、全文のレポートは館内で閲覧できます。

『プランクトン採集による二色海浜緑地周辺の水質の調査』

近畿大学農学部水産学科 原 友里

飼育水に用いる海水採水ポイントの水質を、どのようなプランクトンが存在するかで調査した。

『メタセコイアを用いた展示』

奈良女子大学理学部情報科学科 久妻 さゆり

メタセコイア(3DCGソフト)を用いて、ハクセンシオマネキの立体画像を画面上に作製した。

『海藻を通して見る自然』

筑波大学生命環境学郡生物学類 栗山 友理子

それぞれの海藻がもつ光合成色素と生息域(深度)との関係を考察した。

『自然遊学館の英訳パンフレットの作成』

大阪教育大学教養学部人間科学科 田中 紗耶子

国際化社会に対応し、和文のみしか作成されていなかった来館者用パンフの英語版を作成した。

『展示ワークシートの作成』

八洲学園大学生涯学習学部 諸節 奈津

館内の見学を深めるために、展示に連動したワークシート2種類を主に子供向けに作成した。

(山田 浩二)

自然生態園コーナー

トンボの池から羽化したトンボ

自然生態園「トンボの池」では 1997 年の完成以来、自然遊学館わくわくクラブ（元、自然生態園をつくる会）を中心に継続して生きもの調べが行われてきました。ここでは、これまでにトンボの池で確認されたトンボの増減について紹介したいと思います。

1. トンボの池で確認されたトンボ

これまでに 23 種のトンボが確認されてきました（表 1）。この中で、ホソミオツネトンボ、ハラビロトンボ、ナツアカネ、アキアカネ、マイコアカネ、チョウトンボは成虫でしか確認されておらず、トンボの池から羽化したものでなく成虫が飛来しただけの可能性があります。また、ヨツボシトンボは幼虫で 1 個体しか確認されていません。

表 1 で幼虫の記録として、アオイトトンボ属、アオモンイトトンボ属、シオカラトンボ属はそれぞれ、属までの同定で示しています。それらは成虫では見分けられても、生きたままの幼虫では見分けるのは困難です。生きもの調べをした後、幼虫を池に戻すので、生きたまま同定する必要があります。

成虫を観察する数ではそれぞれ圧倒的に、アオイトトンボ、アオモンイトトンボ、シオカラトンボが多く、オオアオイトトンボ、アジイトトンボ、オオシオカラトンボは比率で言えばわずかです。アカネ属も、ほとんどの場合は属までで同定を留めて

います。ただし一時期、幼虫を羽化させて種を確かめたことがありました。

表 1. 自然生態園「トンボの池」で確認されたトンボのリスト

科	種	幼虫	成虫
アオイトトンボ科	アオイトトンボ	△	○
	オオアオイトトンボ		○
	ホソミオツネトンボ		○
イトトンボ科	アオモンイトトンボ	△	○
	アジイトトンボ		○
ヤンマ科	マルタンヤンマ	△	○
	ギンヤンマ	△	○
	クロスジギンヤンマ	△	○
トンボ科	ハラビロトンボ		○
	ヨツボシトンボ	△	
	シオカラトンボ	△	○
	オオシオカラトンボ		○
	ショウジョウトンボ	△	○
	ナツアカネ		○
	アキアカネ		○
	タイリクアカネ	△	○
	マイコアカネ		○
	リスアカネ	△	○
	ノシメトンボ	△	○
	コノシメトンボ	△	○
	チョウトンボ		○
	ハネビロトンボ	△	○
	ウスバキトンボ	△	○

2. 池さらえの方法を変える

図 1 は、本誌 56 号で報告したものです。池さらえ時に行ったトンボ幼虫の全数調査の結果を示しました。

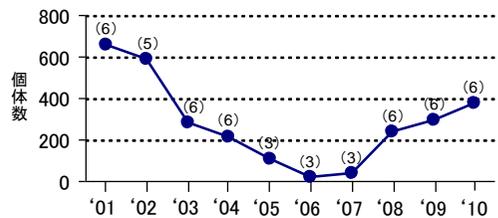


図 1. 「トンボの池」の池さらえ時に採集されたトンボ幼虫の個体数
2005年までは12月、2007年からは6月に池さらえを実施した。
池さらえ後に池干しを行ったのは2005年12月まで（本文参照）。
各点の上を示した括弧内の数値はトンボの種数を示している。

2005年までは冬に池さらえをして約1ヶ月間池干しをしていました。その間、トンボ幼虫は別の人工プールで飼育していました。その方法で続けてきて徐々に種数と個体数が減少してきたので、2006年の冬には池さらえと池干しをせず（調査のみを行い）、2007年からは春に池さらえをしてその日に生きものを戻す方法に変えました。2007年の春は、とても「トンボの池」とは呼べない状態になっていたと思います。

3. トンボが増えた？

2008年から2010年にかけては春に池さらえをしてすぐに生きものを戻す方法を継続し、種数と個体数はやや回復しました（図1）。ただし、個体数の回復の大半はアオイトトンボ属によるものです。2010年には全トンボ幼虫のうち92%を占めてしまいました。アオイトトンボ属は卵越冬なので、2006年冬以前の池干し時には記録されるはずがなく、図1を見て回復と言うのは不正確かもしれません。

4. 幼虫越冬するトンボは？

正確を期すために幼虫で越冬するギンヤンマ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボの個体数の推移を示しました（図2）。

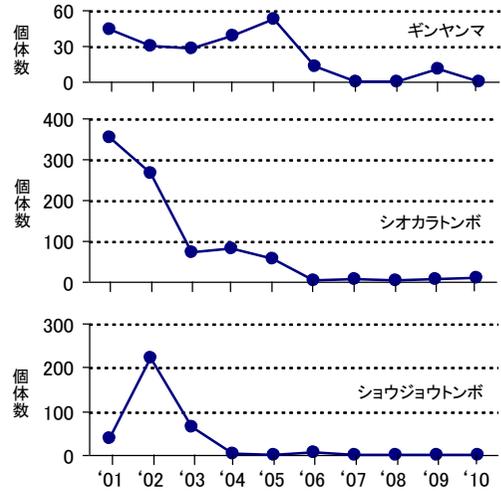


図2. 「トンボの池」の池さらえ時に採集されたギンヤンマ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボの幼虫の個体数（図1の説明を参照）

シオカラトンボとショウジョウトンボは池さらえの時期を変える前から減り始めていましたが、ギンヤンマはその前まで健闘していたと言えるかもしれません。ただし、変更前は12月に調査していたので、そこから越冬して春を迎えるまでの生存率を考慮する必要があります（別の人工プールに移していたことも）。比較できるデータは少ないのですが、例えば2004年冬にギンヤンマ幼虫が28個体採集されて、2005年5月の定量調査では1個体しか採集されなかったという事がありました。

トンボが増えるように池の管理方法を試行錯誤してきたが故に、調査方法を統一できなくなり、トンボの正確な増減が分からなくなってしまいました。池さらえの時期の変更以前から「冬はたくさん幼虫がいて春には少なくなっていた」可能性もあります。

5. トンボの羽化を調べる

まず取るべきデータは春にどれだけ成虫が羽化していくのかという事と考え、遅まきながら 2008 年から春の羽化殻の調査を始めました。トンボの池の岸に生えているアンペライ、カサスゲ、ヨシなどの抽水植物に付いていた羽化殻を数えることで、何個体のトンボ成虫が飛び立っていったのかを調べることができるからです（羽化途中のトンボを見ることもありました、図 3）。それを 2、3 日ごとに回収しました。



図 3. ギンヤンマの羽化
(2010 年 5 月 8 日、トンボの池)

特に 2010 年はひどい年であったことが分かります（ハネビロトンボの確認というトピックはありましたが）。アオイトトンボ属の割合は 2010 年と 2011 年に連続して 90%を越えました。「トンボの池」ではなく、「アオイトトンボとアメリカザリガニの池」になってしまったのです。

2011 年は池さらえの行事が雨のために中止になり、全数ではなく定量調査のみを行いました。池さらえを延期することはないで 1 年間様子を見ることにしました。まだまだ、トンボを増やす方法とそれを測る方法についての試行錯誤は続きます。

(岩崎 拓)

表 2. 自然生態園「トンボの池」で確認されたトンボの羽化殻の数（4月上旬～7月中旬）

種名	調査年	2008	2009	2010	2011
クロスジギンヤンマ		34	14	5	1
ギンヤンマ		5	14	4	3
マルタンヤンマ		8	10	0	1
シオカラトンボ		14	6	0	0
ショウジョウトンボ		15	5	0	7
アカネ属		114	47	0	3
アオイトトンボ属		706	135	86	142
合計		896	231	95	157

表 2 は、種ごとの羽化殻数の変化を示したものです。図 1 とは違って、池さらえの時期の変更後に回復したとは言いがたく、

寄贈標本の紹介

以下の方々より標本を寄贈していただきました。お礼申し上げます。

(※2011年9月分まで)

<植物>

- ◆山本八重子さんより
黒いヒマワリの種 多数
貝塚市木積 2011年9月24日採集

<鳥類>

- ◆山口フミ子さんより
 - ・エゾムシクイ 死体1点
貝塚市大川 2011年5月6日採集
 - ・カワラヒワ 死体1点
貝塚市大川 2011年6月24日採集
- ◆平木遼太郎さんより
キジバト 幼鳥死体1点
貝塚市二色
2011年8月上旬衰弱個体を保護
2011年9月9日死亡
- ◆食野俊男さん他より
クログミ 巣1点
貝塚市蕃原 2011年8月23日採集
(石井葉子さんから情報をいただき、館スタッフと採集に行きました)

<爬虫類>

- ◆奥田大介さんより
シマヘビ 生体1点
ヒバカリ 生体1点
岸和田市河合町 2011年9月25日採集

<魚類>

- ◆秋丸涼太郎さんより
キュウセン 生体1点
コモンフグ 生体1点
近木川河口 2011年7月3日採集
- ◆荒木陽介さんより
アカエイ 死体1点
近木川河口 2011年7月24日採集
- ◆浜田昇さんより
タウナギ 生体1点
貝塚市橋本 2011年7月26日採集
- ◆尾越夏美さんより
コショウダイ幼魚 生体1点
貝塚市二色の浜 2011年8月12日採集



コショウダイ 幼魚

- ◆生長正勝さんより
オニオコゼ 生体1点
貝塚市二色の浜 2011年8月26日採集
- ◆渡辺怜馬さんより
タケノコメバル 生体1点
貝塚市二色運河 2011年8月31日採集
- ◆Tポート貝塚店さんより
メジナ 生体3点
イシダイ 生体1点
アイゴ 生体2点
いずれも貝塚の波止場で釣ったもの

<節足動物>

◆シニア自然大学より

ヘリトリマンジュウガニ 生体 1点
せんなん里海公園 2011年8月11日採集

◆生長正勝さんより

セジロムラサキエビ 生体 1点
クマエビ 生体 2点
クルマエビ 生体 1点
貝塚市二色の浜 2011年8月26日採集



セジロムラサキエビ

<軟体動物>

◆伊藤千陽さんより

ナガオカモノアラガイ 生体 2点
貝塚市橋本 2011年8月12日採集

◆シニア自然大学より

ウミナメクジ 生体 1点
せんなん里海公園 2011年9月10日採集

<環形動物>

◆川口博さんより

ウミケムシ 死体 1点
貝塚市二色の浜 2011年7月26日採集

<昆虫>

◆南元治幸さんより

キイロスズメバチ 巣 1点
貝塚市木積 1995年12月採集



キイロスズメバチの巣

◆五藤武史さんより

チョウトンボ 羽化殻 1点
コシアキトンボ 羽化殻 1点
貝塚市千石荘 2011年7月2日採集
クロクチブトサルゾウムシ 成虫 1点
ヒメカマキリ 幼虫 1点
貝塚市蕎原 2011年7月8日採集
リスアカネ 成虫 1点
貝塚市名越 2011年8月9日採集
コフキトンボ 成虫 1点
堺市西区浜寺南町 2011年8月10日採集
ハイイロチョッキリ 成虫 1点
貝塚市馬場 2011年8月24日採集
ハイイロチョッキリ 成虫 1点
貝塚市馬場 2011年8月25日採集
ハイイロチョッキリ 成虫 1点
コイチャコガネ 成虫 1点
貝塚市大川 2011年8月25日採集
ハイイロチョッキリ 成虫 2点
貝塚市大川 2011年8月30日採集
◆荒木陽介さんより
クマゼミ 羽化殻 1点
貝塚市二色 2011年7月13日採集
クモンクサカゲロウ 成虫 1点
貝塚市二色 2011年9月17日採集

- ◆金井勇樹さんより
クマゼミ 成虫 1点
クマゼミ 羽化殻 1点
貝塚市二色 2011年7月13日採集
- ◆出口英俊さんより
オオクワガタ 成虫死体 1点
貝塚市千石荘 2011年7月23日採集
注) 飼育個体が逃げたものだと考えられますが、
今後の発生状況を見守りたいと思います。
- ◆浜田昇さんより
ミヤマカミキリ 成虫 1点
貝塚市橋本 2011年7月26日採集
- ◆久保元嗣さんより
ノコギリクワガタ 成虫 5点
ミヤマクワガタ 成虫 2点
コクワガタ 成虫 1点
ノコギリカミキリ 成虫 1点
貝塚市木積・大阪府立少年自然の家
2011年8月3日採集
- ◆佐々木仁さんより
ノコギリクワガタ 成虫 1点
貝塚市馬場 2011年8月7日採集
キマダラカメムシ 成虫 1点
貝塚市二色 2011年8月15日採集



キマダラカメムシ

2004年4月22日に高野晴一郎さんが採集して以来、7年ぶり2個体目の確認となりました。

た。2004年の採集は成虫の死体で、おそらく大阪府で初記録だったものと思われます。

- ◆原友里さんより
トゲナナフシ 成虫 1点
貝塚市蕎原 2011年8月12日採集
- ◆藤村雅志さんより
アブラゼミ 羽化失敗個体 1点
貝塚市三ヶ山 2011年8月13日採集
- ◆竹井直さんより
クマゼミ 成虫 1点
貝塚市二色 2011年8月19日採集
- ◆匿名希望さんより
アオスジアゲハ 成虫 1点
貝塚市清見 2011年8月20日採集
- ◆島田英子さんより
アゲハモドキ 幼虫 2点
阪南市光陽台 2011年8月31日採集
- ◆松山慶胡さんより
ショウリョウバッタ 成虫 1点
貝塚市二色 2011年8月31日採集

<クモ>

- ◆川口博さんより
オニグモ 亜成体 1点
二色海浜緑地公園 2011年8月8日採集

<写真>

- ◆松尾博之さんより
キボシカミキリ 成虫 1点
貝塚市木積・大阪府立少年自然の家
2011年7月14日撮影
- ◆左神一也さんより
ヒキガエル 1点
貝塚市木積・大阪府立少年自然の家

2011年7月8日撮影

◆出口英俊さんより

エダナナフシ 交尾ペア 5点

和歌山県岩出市 2011年7月31日撮影

エダナナフシ 成虫 4点

和歌山県岩出市 2011年8月20日撮影

◆山本八重子さんより

ナンバンギセル 花 4点

貝塚市木積 2011年9月7日撮影

◆食野俊男さんより

アイブリ 2点

貝塚市二色海浜緑地 2011年9月13日撮影



アイブリ（ブリ科） 28cm

大阪湾では馴染みのない魚ですが、今年は貝塚市沿岸でちょくちょく上がっていたそうです。

◆食野俊男さんより

キタテハ 成虫 1点

アカタテハ 成虫 3点

ツマグロヒョウモン 成虫 2点

和泉葛城山山頂 2011年9月27日撮影

<剥製>

◆上仁貫世さんより

外国産ワニ 剥製 1点

熊取のノミの市で購入したもの

◆白川陽子さんからは、鈴木一二三氏が収

集されたオシドリ、マガモ、フクロウ、

ニホンリスの剥製を寄贈していただき

ました。寄贈に当たっては、きしわだ自然資料館の風間美穂さんにもお世話になりました。

◆8月8日、貝塚市澤の新谷洋二さんからスズムシの幼虫を多数寄贈していただき、この夏中、館内で飼育展示しました。また新谷さんのご厚意により、希望された来館者の方にはスズムシを差し上げました。

 スタッフ日誌

8月8日、太成学院大学中学校科学部の8名の生徒さんたちと先生2名から自然生態園「トンボの池」を調べたいという申し出があり、自然遊学館わくわくクラブと共同で調査を行うことにしました。



生徒さんたちのソーティング（網ですくった藻やアオミドロから水生動物を選び分ける作業：写真）はとても丁寧で、エラミズなどの種も確認でき、納得のいくデータがとれたと思います。暑い中、御苦労さまでした。（岩）

8月18日、展示飼育しているタカチホヘビが4個目の卵を産みました。これにさきが

け、8月8日には3個まとめて産んでいました。小さな細い体のわりに、卵は長さが2 cm程あり、驚きました。残念ながら、ふ化にはいたりませんでした。(浩)

9月8日、大海水水槽の一番大きいメジナを放流しました。3年から4年飼育し、33 cmぐらいまで生長し、水槽が狭くなったので逃がして、新しくメジナ3匹とイシダイ1匹を入れ替えしました。メジナ3匹とイシダイ1匹は、餌をよく食べて成長しています。(鈴)

9月14日～21日、貝塚市小中学校科学作品展が、当館の多目的室で開催されました。各学校から選ばれた作品が一同に並び、どれも工夫を凝らしたものばかりで、見ごたえがありました。(湯)

お知らせ

特別展示

「自然遊学館の2011年の出来事」

場所：自然遊学館多目的室

期間：2012年1月7日より

貝塚市の自然に関して自然遊学館が2011年に記録した主な出来事を、写真や絵画などで振り返ります。

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2011 秋号 (No. 61)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2011.10.31

この小冊子は庁内印刷で作成しています。